

SEA TRIAL

MAXIMUM UTILITY

REGAL 33 OBX

北米エクスペスクルザーの雄「REGAL(リーガル)」の進化が著しい。

「REGAL 33 OBX」、OBXとは、スタンドライブモデルと区別されたアウトボードモデルのこと。
オープンデッキのクルージングボートのパワートレインがスタンドライブからアウトボードに変わり、

北米のファミリークルザーの主役に躍り出た新しいカテゴリ。

REGAL 33 OBXは、アウトボードモデルのベンチマークとして、そのデザインが注目されている。

text: Yoshinari Furuya photo: Makoto Yamada
special thanks: REGAL JAPAN www.regalboats.jp





高速からの急旋回。これだけバンクした状態でもチェーンで波をしっかりと押さえているので、デッキはドライ。高めのフリーボードは風の流れも良く、ミストの巻き込みもほとんど感じられない。



スポーティなスタイリングに優れた走行性能、そして奇跡のダブルベッドバース カスタマー視点のアイデアに溢れた、いま北米でもっとも人気の万能バウライダー

北米で最も人気の高い30フィート前後のクルージングボートが大きく変化している。スタンドライブが主流であったファミリークルーザーに代わり、アウトボードモデルが躍進。数年前には全く見られなかったアウトボードを複数搭載した新しいボートデザインがマーケットを席巻している。アウトボードモデルは、センターコンソラー一辺倒のフィッシングボートやパフォーマンスボートだけでなく、エクスプレスや、キャビンクルーザーなど、大型化したアウトボードを搭載しさらにバリエーションを増やしている。そのムーブメントを牽引するリーディングビルダーの一つが、フロリダ州



オーランドのボートビルダー「REGAL MARINE (リーガル)」だ。

REGAL MARINEは、Paul KuckとCarol Kuckにより1969年に創業されたビルダー。建造をはじめた14フィートのスキーボートや17フィートのトライハル、21フィートのパウカディが成功を取め、2年後には、フロリダ州のはほぼ中央に位置するオーランドに工場を移し、生産を拡大している。多くのビルダーが、規模を拡大する過程でファンドやcongロマリットに資

本を移す中、REGAL MARINEは創業ファミリーによるビジネスを続けている。「Our People, Our Kin」を掲げ、「すべての従業員がREGALファミ

リーの一員である」という信念を体現している。

REGALファミリーが一貫して追及してきたのは、ボートオーナーのニーズに応えたエクステリアとインテリア。そして、顧客満足度の高いサービス。マリンライフの環境に恵まれたオーランドで、自らボートライフを楽しむ経営者ファミリーやスタッフにより常に改善されるデザイン。REGALのボートデザインは、株主のために大量生産をする大手ビルダーにはない、使う人を思いやるきめ細かい工夫や、唯一無二のアイデアに溢れている。それが顧客満足度の高いボートを生み出し、その結果、顧客満足を専門にリサーチするJ.D.POWERに認められ、「Small Runabouts (16-19feet)」部門で3度、「Express Cruisers (24-33feet)」部門でも3度、「顧客満足度が最も高いボート」と評価された。

REGALは、中立な立場で客観的に評価する第三者機関の調査においても、顧客満足度の高さが証明されたのだ。

*

日本に初上陸を果たした人気モデル「REGAL 33 OBX」。パワートレインはYAMAHAの300馬力ツインアウトボードエンジン。他には、350馬力ツインアウトボードを選ぶこともできる。また、同じハル、エクステリア、インテリアをベースにしたスタンドライブモデル「REGAL 3300」も未だにファンは多い。VOLVO PENTAの220馬力ツインディーゼルエンジンの他に、ツインV8ガソリンエンジンの350馬力、380馬力、430馬力と選択肢が多いので、ゲレンデや用途に応じて選ぶことができる。

REGAL 33 OBXは、REGALの33フッターの中でも、



スロットルのすぐ後方にあるジョイスティックは、サードパーティーのOPTIMUS 360。エンジンメーカーを問わず後付けで連動させることができるジョイスティックコントロール。動きもスムーズで、横移動も正確で効きもよい。



スターボードサイドのリフレッシュメントセンターには、シンクとBBQグリル、リフリジェレーターが備わる。オプションで、追加のリフリジェレーターや、ポップアップTVを設置することができる。水上に浮かぶリビングルーム、最高の風景の中で過ごすことが可能だ。

今最も人気の高いツインアウトボードモデル。特にREGALが推奨するYAMAHA製のアウトボードエンジンはアメリカ本土でも高い評価を受けている。日本の場合は、国内に到着してからアウトボードエンジンを搭載。YAMAHAをはじめサービス拠点が全国にある国産のアウトボードは、都市部から離れた地方でもアフターサービスを受けられ、保管場所やメンテナンスなど制限の多い日本のマリン事情に適している。アウトボードのクルージングモデルが増えることで、北米のクルージングモデル全体が見直されている。

*

ポンツーンに係留されたREGAL 33 OBXは、「ニューポートブルー」と呼ばれる美しいハルカラーを纏い我々を誘う。スイムプラットフォームから乗船する。ほぼフルビーム、幅およそ3,000mmのスイムプラットフォーム

ム。高速走行時の水流や、アウトボードの動きを妨げることのないギリギリのラインまで左右に広げられている。クッション性が良く滑りにくいデッキパッドSeaDekが全面に張られ、安全に乗り降りすることができる。また、スイムプラットフォームの前後は、最長部で1,400mm。船外機の後端に迫り、アウトボードのメンテナンスもしやすい。トランサムとアウトボードの間も広くフラット。安全に移動することができる。ポートサイドにはフロアハッチに収納されたスイミングラダーがついているので、海水浴やマリンスポーツも安全に快適に遊ぶことができるだろう。

スイムプラットフォームからメインデッキへの移動は、スターボードサイドのエントリーゲートから。コーミングパッドの一部を開くと足をかけるステップが現れ、サイドから岸壁への乗り降りもしやすい。

メインデッキのスターボードサイドには、リフレッシュメントセンターと



オープンのパウデッキも人気のスペース。収納されていたチークトップのテーブルをセットすると、もう一つのダイニングスペース。テーブルの代わりにクッションをはめると、足を延ばすことができるシェーズロングのソファになる。パウデッキには左右に3つずつ、ポート全体で13個備わるカップホルダーは、乗船者の携帯電話置き場にもなり便利。



電動で後方に伸びるサンシェードが、メインデッキのリビングと乗船者を真夏の太陽から守ってくれる。左右のコンソールには、それぞれに分かれたダブルサイズのデイクヤビンとトイレルーム。ハルサイドウィンドウが光を取り込み、明るく開放的。パウライダーには奇跡的なアコモデーション。ファミリーに人気の理由だ。

呼ばれるアウトドアギャレー。ミニシンクの他に、KENYONのBBQグリル、ISOTHERMのリフリジェレーター、テーブルトップの蓋を開けるとガスボックスも備わる。ポートサイドには、リフレッシュメントセンターを囲むように全面を使った、前後2,900mm幅のU字ラウンジソファ。着脱式のチークトップテーブルをセットすれば、テラスダイニングとなる。また、リフレッシュメントセンターには、オプションでポップアップのTVを追加することもできる。日本では珍しい、アウトドアに設置するTV。シーブリーズを感じながら寛ぐアウトドアリビングの発想は北米スタイル。ハードトップの全周をエンクロージャーで囲めばインドアのリビングルームとなり、シーサイドの別荘のようにもなる。

ラウンジソファにもREGALらしいアイデアが随所に。ソファ最前部の



バックレストを後方に傾けると、前方を向いた大型のバケットシートに変形、2人掛けのパッセンジャーシートが現れる。そして、最後尾のバックレストを前方に傾けると、後方に向いて座ることができるラウンジソファ。ここは、トーイング中やスイミング時の特等席。さらに、バックレストを下までさげると、トランサムソファはフラットに。前後1,600mm×左右1,900mmのワイドなサンタンベッドに変化する。サロンとスイムプラットフォームを結ぶデイ



スタンドライブを想定したデザインがベースとなっているので、メンテナンス用にメインデッキ後方が油圧で大きく開く。発電機以外はエンジン2台分のストレージ。収納スペースが広いこともアウトボードモデルのメリットの一つだ。トランサムソファは前向きにも後向きにもフラットにもアレンジ可能。1,600mm×1,900mmのワイドなサンタンベッドは子供達に人気の遊び場となる。



ベッドは、日光浴をする大人だけでなく子供達にも人気の遊び場となる。

フロントウィンドシールドのセンター部を開ける。その下、風を防ぐアクリルのドアを開くと、オープンパウのラウンジエリア。左右には前方を向いたアームレスト付きのシングルソファ。パウ側には、後方を向いたベンチシート。ポートサイドの空間にクッションをはめ込めば、シェーズロングのカウチソファ。走行中、最も景色がいいパウデッキはゲストや子供達にも人気が高い。

そして、パウデッキとメインデッキを隔てるコンソールには、隠れたキャビンスペースがある。ポートサイドのベンチシート側を横に開くと、前後1,200mm、最大幅1,060mmのヘッドスペースが現れる。ステップを降りると高さは1,360mmと深く、座った状態であればヘッドクリアランスも十分。手洗い用のシンクも付いたトイレは、ファミリーにはマスト。嬉しいファシリティだ。反対側、スターボードサイドのヘルムステーション下にはクォーターパース。エントリーは、パウデッキのシングルソファを前方に大きく開く意外な方法。そこに現れるデイクャビン。ベッドは小さく見えるが、長さ2,000mm、幅1,470mmのゆとりあるダブルサイズが用意されている。左右それぞれのキャビンにはフィックスのウィンドウが備わり、光が入り、明るく快適。33フッターとはいえ、フラットなオープンデッキのパウライダーには奇跡的なアコモデーション。ファミリーに人気の理由だ。

そして、ハードトップにもREGAL独自の仕掛け。内蔵された電動シェードが後端から大きく展開し、アフトデッキ全面をカバーする。ハードトップのフラットなスタイリングが可能としたものだ。さらにハード

トップの中央は、幅1,800mm、前後1,560mmとワイドに開くソフトトップ。こちらは手動だが、動きも軽く、簡単に開閉することができる。電動シェードと併せ、光と風を自在にコントロールする優れたアイデアだ。

*

フリップアップしたヘルムシートに腰をかける。ジョイスティックコントロールOPTIMUS 360を操作し、栈橋を真横に離れ、港内を自在に回頭し出港する。港を出て、スロットルに持ち替え加速させる。1,000rpmで4.7ノット、2,000rpmで8.2ノット、2,500rpmから一気に加速し3,000rpmで17.6ノット。最も効率が良い3,500rpmは26.0ノット。この回転数の場合、350マイル以上航行することができる計算となる。4,000rpmでは29.7ノット、5,000rpmでは37.5ノット。トップスピードは、5,500rpmで42.1ノットを記録した。

30～35ノットで旋回に入る。バンクからスムーズにマニューバを描く。急旋回では、姿勢を保ったまま適度にスライドレクリッピングポイントでグリップすると同時にパワフルに加速する。オープンスタイ

ルは低重心で安定感があり、クイックなハンドリングでも不安になることはない。センターバランスが軽快なマニューバを描き、高い剛性が波を切りソフトライド。高いマニューバビリティやシーワージネスはREGALの伝統だ。

細部までファミリーユースの使い勝手が考えられたデザインや、空間を無駄にしないアイデア。いつまでもドライブしたくなるエキサイティングな走り。所有する喜びに満たされるスポーティなスタイリング。全てがREGAL 33 OBXの特徴であり、選ばれる理由だ。 **P.B.**

REGAL 33 OBX

全長	10.34 m
全幅	3.2 m
喫水	0.89 m
重量	4.71 ton
エンジン	2×YAMAHA F300
最高出力	2×300 HP
燃料タンク	946 L
清水タンク	110 L
問い合わせ先	リーガルジャパン TEL: 079-322-8800
www.regalboats.jp	



YouTube

